

ぶら多摩クラブ・ウォーキング 109 2026 日光道中

(すこし番外編) 足立区、草加市



小林一茶像

やせ蛙負けるな一茶是にあり

西新井大師から草加宿へ

3月14日(土) 東武大師線大師前駅改札前10時集合

コース： 大師前駅⇒西新井大師⇒国土安穩寺⇒島根鷲神社⇒炎天寺⇒(増田橋跡)⇒延命寺
⇒瀬崎浅間神社⇒火あぶり地藏尊⇒浅古家の地藏堂⇒草加駅

約9km

昼食は 竹ノ塚近辺のレストランにて

申込期限：3月11日(水)



延命寺

炎天寺

増田橋跡

島根鷲神社

西新井大師

国土安穩寺

スタート 大師前駅

ゴール 草加駅

瀬古家の地蔵堂

火あぶり地蔵尊

瀬崎浅間神社



I はじめに

日光街道は、江戸幕府によって整備された五街道のひとつで、江戸日本橋を起点とし、日光東照宮までの総延長は36里3町2間（約142km）に及びます。そこには21の宿場が設けられ、大名が宿泊・休憩した本陣、脇本陣などが置かれたほか、旅籠、木賃、茶屋や商店が建ち並び、町場を形成しにぎわいを見せていました。江戸時代、今の埼玉県には6つの宿場町（草加宿、越ヶ谷宿、粕壁宿、杉戸宿、幸手宿、栗橋宿）が設けられ賑わいを見せていました。風情ある街並みが残っています。

以前ぶら多摩クラブ千住宿を訪ねましたが、今回はその続きです。スタートは日光街道を外れ西新井大師からとし、途中日光街道に合流し草加宿を目指します。

II 見どころ

1. 西新井大師

西新井大師は五智山遍照院總持寺といい、真言宗豊山派の寺院です。天長の昔、弘法大師様が関東巡錫（じゅんしゃく）の折、当所に立ち寄り悪疫流行になやむ村人たちを救わんと、御自ら十一面観音像とご自身の像をお彫りになり、観音像を本尊にそしてご自身の像を枯れ井戸に安置して二十一日間の護摩祈願をおこないました。すると清らかな水が湧き、病はたちどころに平癒したと伝えられます。その井戸がお堂の西側にあったことから「西新井」の地名ができたと伝えられております。（西新井大師ウェブサイトより）



2. 国土安穩寺

応永17年（1410年）日通が開山、千葉満胤が開基となり創建、長久山妙覚寺と称した。日通は宗祖日蓮聖人にゆかりある本間氏の出身で、懇意にしていた日祐聖人の遺命を奉じ、寺院の建立に努めたとされる。その後徳川秀忠、家光父子が巡遊し御善所となった。寛永元年（1624年）徳川家祈願所位牌安置所となり現寺号を賜り葵紋の使用も許された。現在の諸堂は鐘楼を除いて昭和以降の建立である。（ウィキペディア）



アより引用)

3. 島根鷲神社

創建年代は不明であるが、1318年（文保2年）の中興といわれている。島根村の鎮守であった。祭りに奉納される「島根ばやし」「島根神代神楽」は、古来より伝承されているもので、両方とも足立区の無形民俗文化財に登録されている。境内には、江戸幕府8代将軍徳川吉宗が座ったという「將軍石」や富士塚が残されている。（ウィキペディアより引用）



(4. 増田橋跡)

5. 炎天寺

当山は平安期の中ごろに創建されたと伝えられています。天喜年間（1053～1056）、炎天続きの旧暦6月、奥州の安倍一族の反乱を鎮定に赴く源頼義とその子、八幡太郎義家のひきいる軍勢が当地で野武士に道を塞がれ激しく戦います。戦況はきわめて悪く、京の石清水八幡宮に向かい戦勝を祈願。ようやく勝利を得ることができました。そこで寺と社を建て寺にはその社の別当を任せたと伝えられています。またその折、村の名を六月、寺の名を源氏の白幡がかったので幡勝山、戦勝祈願が成就したので成就院、気候が炎天続きだったので炎天寺としたといわれます。この六月村の炎天寺という名称はつとに評判になり、江戸時代後期の俳人小林一茶が寺の周辺をよく散策し句を残しました。



蝉鳴くや六月村の炎天寺

武蔵の国竹の塚で詠んだという前書きがある（湯本稀杖本）

やせ蛙負けるな一茶是にあり



などの句は句碑として蛙相撲の銅像や一茶像とともに後の時代に建立されています。(炎天寺ウェブサイトより)

6. 延命寺

延命寺は、如意山普門院延命寺といい、真言宗豊山派の寺院です。延慶2年(1309)に法印宥慶を開山として創建されました。延命寺山門は、もともと新潟県の佐渡島にある円通寺の山門で、宝暦4年(1754)の創建といい、昭和51年(1976)に延命寺へ移築されました。延命寺の山号にちなんで如意門と呼ばれています。飛騨高山の名工、梶浦某が5年の歳月を掛けて、創建したといい、一間一戸の薬医門で総檜造、屋根は切妻造の本瓦葺で、正面の軒に唐破風がついています。彫刻の種類も多彩をきわめ、うず文、波紋、菊、松、竹、獅子、象、鶴亀、迦陵頻伽(かりょうびんが:上半身が人で、下半身が鳥という想像上の生物)など当時の建築装飾の粋を集めたような華麗な山門です。なお、延命寺は、「木造聖徳太子立像」と板碑1基・庚申塔1基が足立区登録文化財となっています。(足立区ウェブサイトより)

7. 瀬崎浅間神社

富士浅間神社は木花開耶姫命(このはなさくやひめのみこと)を祀ります、現本殿は天保13年(1842年)に再建されたことが、本殿内の階(きざはし)の擬宝珠銘(ぎぼしめい)から明らかです。本殿の建物は、前面に軒唐破風(のきからはふ)、千鳥破風(ちどりはふ)を配し、随所に彫刻を配し善美を尽くしたものです。この本殿造営の頃は県内でも写実化した彫刻の盛期でもあ



り、一般に外観を主に、いわゆる「見る社殿」としての傾向が強くなり、この建物も例外ではありません。現在ではこのような豊富な彫刻を配した建物は少なく、特にこの地域での宮彫(みやぼり)彫刻を研究する上からも重要なものです。(草加市ウェブサイトより)

8. 火あぶり地藏尊

旧四号国道(県道足立・越谷線)沿いの瀬崎町と吉町との境に、「火あぶり橋」という橋があります。橋の際に通称“火あぶり地藏”と呼ばれる地藏堂が建っており、昔の処刑場跡と伝えられています。今回は、この地藏堂にまつわる悲しい話を紹介します。

昔々、千住の掃部（かもん）宿（現在の千住仲町付近）に母親と一人の娘が住んでいました。娘の父は、かなりの借金を残してこの世を去り、後に残された母娘二人は、借金を返済するために一生けんめい働きました。生活は苦しいながらも、人柄の良い親子は、近所のだれからも好かれていました。しかし母娘二人の収入では生活していくのが精一杯で、とても借金を返す余裕などありません。ある時、瀬崎村のさるお大尽の家で女中を探しているという話を聞き、これがかかなりの好条件だったものですから、娘は奉公に出ることになりました。親孝行で働き者の娘は、ここでもみんなから可愛がられ、娘の家の借金もだんだんと少なくなり、幸せな毎日を送っていました。お大尽の家に奉公に出て何年か過ぎたある時、長い間の無理がたたったのでしょうか、娘の母親が重い病気で倒れ、近所の人に面倒をみてもらっている事を知りました。娘は、主人の気げんのよい時や、ひまな時などを見はからっては、「ご主人様、お願いでございます。母が重い病で伏せっております。看病のために、しばらくおひまをいただきたいのです」と何度も哀願しましたが、主人はどういうわけか、娘の頼みを聞きいれてはくれません。その間にも母の病状は悪化し、娘はいてもたってもいられません。悩みぬいたあげく、「この家が燃えてしまえば、母の元へ帰ることができるのだわ」と考え、大胆にもお大尽の家に放火をしてしまいました。幸いにも、被害は少なくてすみましたが、「犯人は、誰か」という事で大騒ぎになりました。意外にも、犯人がこの家の働き者と評判の女中であり、放火の理由がわかった時は、村人たちは大いに同情しました。しかし、火つけの罪は「火あぶりの刑」と定められていましたので、娘はこの地で処刑されてしまいました。村人たちは、この哀れな罪人の霊を慰めるために、講の人々が中心となって、処刑された場所にお堂を建立し、地蔵を安置して供養しました。お地蔵さんは現在、旧四号国道の激しい車の往来を何事もなかったかのように眺めています。（草加市ウェブサイトより）

9. 浅古家の地蔵堂

別名子育て地蔵。言い伝えでは、浅古家わきを流れていた堀が増水したときに上流から流されてきた地蔵を、浅古家先祖が救い祭ったところ、子宝に恵まれたといえます。市役所庁舎は、市が地蔵堂を除く浅古家所有の土地を購入して、建設されました。旧日光街道（市役所東側通り）の拡幅整備や西棟庁舎建設の際など、何回か地蔵堂を移設する提案も出ましたが、市民に長い間親しまれてきたことを大切に、市ではこの場に残すことにしました。（草加市ウェブサイトより）